



2022年11月30日

報道関係者各位

慶應義塾

第711回三田演説会（12/20）
「近代日本の翻訳文化と福澤諭吉－『学問のすゝめ』150年を記念して－」
アルベルト・ミヤンマルティン
慶應義塾大学経済学部准教授

三田演説会は慶應義塾で1874（明治7）年に始まり、2015年7月に第700回を数えました。12月20日（火）に第711回三田演説会を開催し、「近代日本の翻訳文化と福澤諭吉－『学問のすゝめ』150年を記念して－」と題して、アルベルト・ミヤンマルティン 慶應義塾大学経済学部准教授が講演します。

つきましては、本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をよろしくお願いいたします。

1. 開催概要

- (1) 日 時：2022年12月20日（火） 14時45分～16時15分（開場14時00分）
- (2) 講演者：アルベルト・ミヤンマルティン
（慶應義塾大学経済学部准教授）
- (3) 演 題：「近代日本の翻訳文化と福澤諭吉－『学問のすゝめ』150年を記念して－」
福澤諭吉は、『学問のすゝめ』の中で、「書中に記すところは、西洋の諸書よりあるいはその文を直ちに訳し、あるいはその意を訳し」たものであると断っている。本講演では、江戸時代の蘭学医から明治・大正期の西洋文学翻訳者まで、日本における翻訳史の概観を踏まえつつ、福澤諭吉やその門下生によるウェーランド『修身論』の翻訳をはじめ、近代日本における翻訳の文化について検討する。
- (4) 会 場：慶應義塾大学（三田キャンパス）三田演説館
東京都港区三田2-15-45
- (5) 交 通：JR山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約8分）
都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約7分）
都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約8分）
<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>
- (6) 参 加：入場無料・事前予約（人数制限あり）
※座席は先着順となります。

2. アルベルト・ミヤンマルティン 准教授 プロフィール

〔略歴・役職〕

慶應義塾大学経済学部准教授。慶應義塾福澤研究センター所員。日本・スペイン・ラテンアメリカ学会理事（言語学部門部長）。スペイン生まれ。バルセロナ自治大学翻訳通訳学部卒業後、日本政府国費留学生として大阪大学大学院言語文化研究科にて博士号（日本語・日本文化）を取得。山口県立大学国際交流員、同志社大学グローバル地域文化学部助教などを経て、2016年に慶應義塾大学経済学部専任講師に着任、2020年より現職。2005年に第14回スペイン全国バルセロナ日本語弁論大会上級部門優勝。専門分野は言語学、翻訳学、日本研究（教育思想史）。

〔主要著訳書〕

- ・『“A Message of Farewell to Nakatsu” by Fukuzawa Yukichi: Multilingual Edition with Commentaries in English and Japanese（「中津留別之書」——多言語で読む福澤諭吉）』慶應義塾大学福澤研究センター（共編著訳、2022年）
- ・『『修身論』の「天」——阿部泰蔵の翻訳に隠された真相』慶應義塾大学教養研究センター選書19・慶應義塾大学出版会（単著、2019年）
- ・木村直樹長崎大学教授「近世日本における西欧文化との交流と通訳・翻訳：スペイン通詞不在期におけるオランダ通詞の視点から」『日本スペイン外交樹立150周年記念シンポジウム論集』（スペイン語訳、2019年）
- ・「スペイン内戦文学：ペラ・カルデスの戦争体験記—あるカタルーニャ人兵士の視点(抄訳)—」『GR：同志社大学グローバル地域文化学会紀要』（日本語訳、2014年）

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など10余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として1874（明治7）年6月27日に発足し、翌年、日本最初の演説会堂である三田演説館が完成しました。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。三田演説館は1967（昭和42）年、国の重要文化財に指定されています。

福澤は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝えるの法なり」（『学問のすゝめ』十二編）と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えた福澤本人が述べています。

旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

*本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。
*ご取材に際しては、事前に下記【広報室】までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（唐）

TEL 03-5427-1541 FAX 03-5441-7640

Email m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>

【本イベントに関する問い合わせ先】

慶應義塾総務部総務担当

TEL 03-5427-1517